

発行

愛媛大学ダイバーシティ推進本部
女性未来育成センター

〒790-8577

愛媛県松山市文京町3番

E-mail hime@stu.ehime-u.ac.jp TEL/FAX 089-927-8602

女性未来育成センター公開シンポジウム2015を開催しました 大学における女性教員登用について-ポジティブアクションを考える-

平成28年2月22日に愛媛大学女性未来育成センター公開シンポジウム2015を開催しました。「大学における女性教員登用について-ポジティブアクションを考える-」をテーマに掲げ、学内から約80名が参加しました。開会の挨拶で大橋裕一学長は「地方の生き残りのためには、女性が地域に残り活躍できるような町づくりを進めていかなければなりません。県内の企業や経済団体は、すでに危機感をもって女性が働きやすい職場作りを目指した取り組みを始めています。大学がこうした流れに遅れを取るわけにはいけません。」と大学の女性登用の重要性を呼びかけました。

特別講演では日本大学薬学部薬学研究所上席研究員の久子氏に「Beyond the Bias and Barriers 女性リーダー育成と基盤整備 一次の段階の支援に向けて」と題するご講演をいただきました。女性研究者とバイアスの問題を提起され、日米比較を踏まえてバリアを超えるための採用と養成の要点、トップのリーダーシップの重要性についてご講演いただきました。



【女性を取り囲むバイアスについて説明される大坪氏】

パネルディスカッションでは愛媛大学女性未来育成センター長土屋由香教授から本学の女性教員比率について説明がありました。その後パネリストの各学部の学部長などから学部の現状、取組、および課題について説明し、現状を打破するために、意見交換を行いました。優れた研究者に選ばれる愛媛大学となることは大学全体の課題です。そのためには男女がともに働きやすく雰囲気の良い大学となることが必須です。全学をあげて女性を増やし、責任ある立場で発言できる女性を増やす必要性を再認識する機会になりました。



【土屋由香センター長】



【パネルディスカッションの様子】

【参加者の声】(一部抜粋)

「『自分に対する過小評価を破棄すること』という課題は大事だと思った。内在するバイアスに気づかされた。」
「ポイント制の導入で苦しいことが浮き彫りになった。全学部からパネリストが出られた意識が大きく、本音を共有できたと思う。」
「ポイント制が思わぬ足かせになっていると思った。追加採用が現実的に難しい現在にいる女性教員が研究しやすい政策を考えた方がよいのではないか。それが結果的に女性の積極的登用の土壌になるのではないか?」



平成28年1月4日～1月7日

冬休み学童保育を行いました

教職員のお子さん(小学生)対象の冬休み学童保育を職員会館において実施し、20人のお子さんをお預かりしました。4日間の短い期間でしたが、けん玉遊び、七草粥や白玉ぜんざい作り、およびスキー場でのそり遊びとイベントが盛りだくさんでした。



愛媛大学の教職員がえひめ県の

ロールモデルに記載されました

愛媛県内には、企業や公官庁、地域など様々な分野で自分の個性と能力を発揮し、いきいきと活躍する女性や、仕事と生活(家庭)を両立しながら、地域や職場で活躍している男性が多数おられます。

その方々を紹介しているえひめ男女共同参画のためのロールモデルに愛媛大学の教職員が掲載されています。

プロテオサイエンスセンター	杉浦 美羽 准教授
法文学部	土屋 由香 教授
教育・学生支援機構	平尾 智隆 准教授
教育学生支援部	吉田 一恵 部長

女性研究者エンパワーメント講座を開催しました

女性研究者のリーダーシップ養成と研究力向上、そして女性研究者が元気に研究活動を継続していくために、女性研究者エンパワーメント講座を開催しています。

実務編「英語力を磨く！」

平成28年1月23、24日に実務編「英語力を磨く！」として、川上輪子氏(Linc Science)をお招きして、英語研究プレゼンテーション、「採択される英語論文の書き方」の2つの講座を開催しました。紙産業イノベーションセンター及び南予水産研究センターにもLIVE配信を行い、本学の教職員・学生・大学院生のみではなく、近隣の大学の研究者も含め、延べ53人が参加しました。

「英語研究プレゼンテーション」では、プレゼンにおけるレトリカルクエスチョン等を使った海外の聴衆に向けた効果的なアプローチ及び質疑応答への対処などについて学びました。

「採択される英語論文の書き方」では、ジャーナル・エディターの声を変えながら最近のトレンドを学び、より適切な受動態の活用法を学びました。

効果的なタイトル、キーワード、アブストラクトを書くコツ、インターネットでより検索されやすいようにするテクニック、論文執筆に役立つコロン・カンマ・セミコロン・カッコの使い方など非常に実践的な内容で、さらに学んだテクニックがNature, Science, Lancetなどのトップジャーナルでどのように活用されているかを確認して、自らも実践練習を行いました。参加者からは「これからも実践的で活用できるセミナーを希望します。」といった声が多くあり、大変好評でした。



【会場の様子】

第3回 「女性教員を増やす取り組み」

平成28年1月28日、プロテオサイエンスセンター寄生病原体学 石野智子准教授がコーディネーターを務め、名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻 上川内あづさ教授を講師にお迎えし、第3回エンパワーメント講座「女性教員を増やす取り組み—その結果から見えてきた効果—」を開催いたしました。

第一部では、上川内教授より名古屋大学で女性教員が増えたことによって、リーディング大学院での女性トップリーダー育成のプログラムや、子育て単身赴任教員ネットワーク、女性神経科学者による脳神経回路世界拠点構想が立ち上がるなど、女性活躍の取組が大きく進んだことが紹介されました。

続いて「研究留学と海外女性研究者事情」をテーマに交流座談会を行い、上川内教授のドイツ留学のご経験を中心に、愛媛



【交流座談会での意見交換の様子】

大学からも留学経験のある男女の教員複数名が自身の経験をもとに、海外研究者事情を語りました。男性の参加者も多く、女性研究者が研究と家庭を両立するための苦勞などにも共有してもらうことができました。

第二部の上川内教授の研究テーマ「聴覚情報処理を担う神経回路基盤の解明」の講演では、音楽を美しいと感じる起源を求めて、脳内で音がどのように情報処理されるのか、ショウジョウバエを利用した研究に関する講演が行われました。多くの質疑応答があり、活発な研究交流会となりました。

サイエンスひめこ活動報告

リケジョ就活カフェ

平成27年12月2日に就活を終えたばかりの「サイエンスひめこ」が、これから就活を迎える理系女子に自身の就活体験やアドバイス話す「リケジョ就活カフェ」を開催しました。

第1部は、6名の「サイエンスひめこ」がスライドを使って自身の就活のスケジュールや、不安だったこと、面接で聞かれたことなどを披露しました。その後の座談会では後輩のリケジョからの質問に答えました。「大学院に進学するために準備したことは?」「実際に就活にはどれくらいお金がかかりましたか?」など、ここでしか聞けないリアルな就活を後輩リケジョに伝えることができました。



【参加者の声】(一部抜粋)

「なぜその就職先を選んだかや、就活中に悩んだこと、内定後の話などリアルな話が聞けてとても参考になりました。」
「イメージがわいて、就活について身近に感じる事が出来た。」
「自己分析や自分に合う企業についてしっかり考えるきっかけになった。」

リケジョ 応援企業見学ツアー

平成27年9月28日(月)、理学部主催、女性未来育成センター共催で、キャリアビジョン開拓のための「リケジョ 応援企業」見学ツアーを実施しました。

今回は、学生と教員合わせて15名で、リケジョ 応援企業として先進的にリケジョが活躍されている県内の3つの企業を見学しました。

最初に訪れた株式会社井関松山製造所では、今まで注目されてこなかった農業で活躍する女性に焦点をあてた「夢ある農業女子応援プロジェクト」などについて説明いただきました。

次に株式会社日本食研で、工場見学と実際に育児休業を取得した社員と交流、懇談を行いました。

最後に重松建設株式会社のモデルルームを訪れ、社長の重松宗孝氏より学生にメッセージをいただきました。モデルルームの見学や社長と女性社員3名を交えて交流会の後、場所を実際の建設現場に移し、建築現場での実際の建材や業界のことなど様々な説明を受けました。

学生達は、先輩達がワークライフバランスを考えながら生き生きとやりがいを持って仕事に取り組んでいることに刺激を受け、就職のその先についても考える良いきっかけとなりました。

